

2025 年度第 1 回 LSC セミナーを開催しました

2025 年 10 月 31 日（金）に 2025 年度第 1 回 LSC セミナーを開催しました。講師には、Ronride 株式会社 代表取締役の高山善光先生をお招きし、「生成 AI で何ができるか～教育現場での活用～〈初心者編〉」というテーマで開催しました。高山先生は、民間企業でデータサイエンティストやプロダクトマネージャー、データ分析ツール開発等を経験したのち、現在はアカデミックライティング学習アプリの開発を通して、生成 AI による教育環境の改善に取り組んでおります。昨今、教育現場における生成 AI の活用方法が話題となっており、大学に在籍する教職員が生成 AI をどのように活用できるのか、その可能性と課題等について情報提供していただきました。また、今回のセミナーでは実際に参加者が PC を用いて生成 AI の操作を体験していただきました。

セミナーの最初に生成 AI の一般的な理解を概観しました。「人工知能」、「機械学習」、「ディープ・ラーニング」、「生成 AI」などの用語とその概要を理解し、これまで行われてきた活用法やその仕組みについて理解しました。また、生成 AI の活用例として、高山先生が作成された動画が紹介され、従来は膨大な費用と労力が必要であった動画や教材制作が、生成 AI による自動化で大幅に効率化されることが示されました。生成 AI の登場によってまるで人間の思考と同一のものが出力されるようにも見えますが、高山先生の解説によると実際は生成 AI は思考しているのではなく「思考しているように見せかけて」いるのだということです。その例として、「勉強ができない学生の学習習慣を調べたいので、カブトムシの生態について教えてください」といった一貫性のない質問を生成 AI に入力してみると、生成 AI の限界を理解することができました。生成 AI の「自然にみせかける」能力を活用する例として、「情報の整理」、「作業的な会話の自動化」、「文章/コードの生成」が挙げられ、参加者はそれぞれの専門分野のキーワードを用いて論文の要約や一覧表を作成したり、履歴書を作成するためのフォーマット作成の方法を学んだりしました。また、レポート評価に生成 AI を活用するための練習として、プロンプト設定のワークを行いました。また、生成 AI を正しく使いこなすためには目的にあったプロンプトを入力することが大切であることを理解するために、さまざまな指示文を入力し、それぞれの出力の比較を行いました。

高山先生は、生成 AI の活用に必要なのは扱う人自身のアカデミックスキルであり、批判的思考や問題発見・解決能力によって、そのタスクを「何のためにやるのか」を自分で明確にし、出力された結果を自分で批判できることが重要であること、また、教育現場で生成 AI を活用する鍵は「主従を逆転させないこと」だと強調されました。

生成 AI に依存すると批判的思考が十分に育たない可能性があります。教育現場での利用方法は十分に考えて行われるべきでしょう。そのための利用方法案として、「いつでも質問可能な TA」や「議論の相手」としての活用方法などが例として挙げられました。そして、参加者同士のグループで「どうすれば主従を逆転させない利用ができるか」を話し合いました。

AI を活用する大学生はすでに多く存在し、教育者側もそれを前提とした課題設計や評価方法を再考する必要があります。アカデミックスキルの基本要素（批判的思考、課題発見・解決能力、意思決定力）は、生成 AI に置き換えられない能力であり、教育現場ではそれらを早期から育むことが必要です。AI の利用が一般化しつつある現在、教育現場の私たち一人ひとりが考えながらその活用法を模索しつづけることが大切だと感じました。今回のセミナーでの学びがこれからの本学の教育実践の中で有意義に生かされていくことを期待しています。（参加者 教員 13 名・職員 12 名）

